

# 四季成り性イチゴ新品種「<sup>なつ</sup>夏のしずく」 —多収性で国産イチゴの端境期である夏から秋に収穫可能—

本城 正憲

農研機構東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 畑作園芸品種グループ

## 1. はじめに

イチゴは生食用やケーキなどの業務用として周年需要があるが、6月～11月にかけての夏秋期は生産量が落ち込み、端境期となっている。需要に供給が追いついていないため、夏秋期には輸入も多く行われているが、洋菓子店などの実需者からは、新鮮で高品質な国産イチゴが欲しいとの要望がある。これらの要望に応えるべく東北や北海道、長野などの寒冷地・高冷地では、その冷涼な気候を生かして、四季成り性イチゴ品種を用いて夏秋期に果実を収穫する夏秋どり栽培が行われ、高単価販売による高収益経営が実現されている。四季成り性品種は、その名の通り、夏や秋でも花が咲き、果実を収穫できる。しかし、四季成り性品種の改良の歴史は浅く、収量性や日持ち性、輸送性などのさらなる改良が求められてきた。そこで、農研機構東北農業研究センターは、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県との共同研究により、6月～11月に収穫できる四季成り性のイチゴ新品種「夏のしずく」を育成した。

## 2. 育成経過

「夏のしずく」は、2011年に多収性の四季成り性品種「みやざきなつはるか」に、果実硬度が高い四季成

り性の育成系統06sAB-4e（「なつあかり」×盛岡30号）を交配した実生集団から選抜・育成した。品種名は、夏にとれるみずみずしいイチゴとのイメージに因む。

## 3. 品種の特徴

草姿は立性で草勢が強く大株となる（写真1）。ランナーの発生本数は多く増殖は容易である。寒冷地や高冷地での夏秋どり栽培における収量は多く、3 t/10a 以上の商品果収量が見込める（表1）。果実は



写真1 「夏のしずく」の植物体  
「夏のしずく」の草勢は強く、既存品種より大株になる。

表1 「夏のしずく」の収量および果実特性

品種名	商品果収量				商品果率 (%)	硬度 (gf/φ2mm)	糖度 (° Brix)	酸度 (%)
	果数 (×千個/a)	果重 (t/10a)	標準比	平均1果重 (g)				
夏のしずく	32.5	3.32	242	10.2	76.8	44.9	9.7	0.91
なつあかり	12.7	1.37	100	10.9	69.5	34.5	10.1	0.73
サマーベリー	21.1	2.38	173	11.2	75.6	29.5	9.9	1.02

岩手県盛岡市において2014～2018年に行った夏秋どり栽培（6-11月）における平均値。栽植密度571株/a。商品果は、小果（6g未満）や奇形果を除いた、6g以上の果実。標準品種は「なつあかり」。

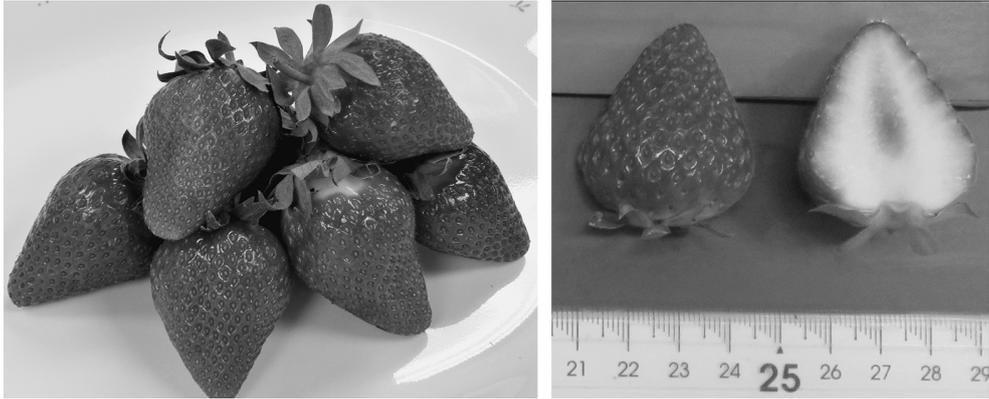


写真2 「夏のしずく」の果実  
果実は円すい～長円すい形、果皮色は赤、果肉色は淡赤になる。

円すい形～長円すい形で、果皮色は赤、果肉色は淡赤である(写真2、グラビア参照)。輸送性や日持ち性にかかわる果実硬度は「なつあかり」や「サマーベリー」より高く、また、糖度、酸度ともに既存品種並みに高く爽やかな食味で、ケーキなどの業務需要に適する(表1)。

#### 4. 栽培のポイント

栽培適地は北海道や東北、関東・中部地方などの寒冷地・高冷地で、栽培管理は一般的な夏秋どり栽培向け四季成り性品種に準じる。いくつかのポイントとなる点をあげると、(1) 大株になるため、株間は25～30cm以上とし、株当たりの受光量を確保することで、高い収量を達成する。(2) 草勢が強く水分要求量が多い品種であるため、水不足にならないよう注意する。葉の萎れが見られる場合は、給液回数を増やすなどの調整を行う。(3) 過繁茂になると風通しや日照条件が低下するため貧弱な腋芽は除去するが、旺盛な生育が見られる芽はすべて残すか少なくとも3芽以上残すようにする。「夏のしずく」の場合、旺盛な花房を複数の芽に発生させることで株当たりの花房数を確保し、高い株当たり収量が得られる。生育が旺盛でない細い花房や、直径が約2cmを下回り小さな果実にしかならない花、雌蕊の形が乱れており肥大すると奇形果になる花などは適宜除去する。芯止まりはあまり発生しない品種であるが、複数の腋芽・花房を確保することで、より確実に芯止まりによる収量低下を回避できる。(4) 特に着果負担がかかった場合に果形が長細くなりやすいため、草勢の維持に努める。(5) 病害に対する強度の抵抗性はもたないため、一般的な防除を確実にを行う。

#### 5. おわりに

本品種については利用許諾先・栽培地域の限定などは設けていない。種苗の入手先の最新情報については、農研機構 HP ([https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds\\_list/index.html](https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds_list/index.html)) を確認されたい。また、生産者による自家用の栽培向け増殖については、種苗法の改正により、令和4年4月1日以降、育成者権者の許諾が必要となったが、「夏のしずく」の場合、農研機構への申請により無償で許諾される。こちらの手続きの詳細についても、農研機構 HP (<https://www.naro.go.jp/collab/breed/permission/index.html>) を確認されたい。

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4

(ほんじょう まさのり)

#### ■種苗の入手先の最新情報：

農研機構 HP ([https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds\\_list/index.html](https://www.naro.go.jp/collab/breed/seeds_list/index.html))



#### ■自家用の栽培向け増殖手続き：

農研機構 HP (<https://www.naro.go.jp/collab/breed/permission/index.html>)

